

春ノ十四裏

のぼるせんだんの林へはやしにいたともがらは衣(ころも)か

ならずかうばし功利天へたうりてんの・蘭へそのには観崙へけんぎ

の色をふくみ蓮華世界へれんげせかいの鳥へとりは妙法へめうほうの

文へもんを轉へさへづるされば名聞憍慢へみやうもんきやうまんの心をすてゝ

貪欲慳貪へとんよくけんどんの思ひを忘へわすれ邪見●盗へじやけんちうたうの

罪へつみをつくらず姪酒妄語へおんじゆまうごの戒へかいをたもち

て念仏へねんぶつさむくゑ悔へをこたららずつとめて佛へほとけ

にならんとおもひてなみだをながす

ほとに西へにし山の端へはちかく月かたぶけは